

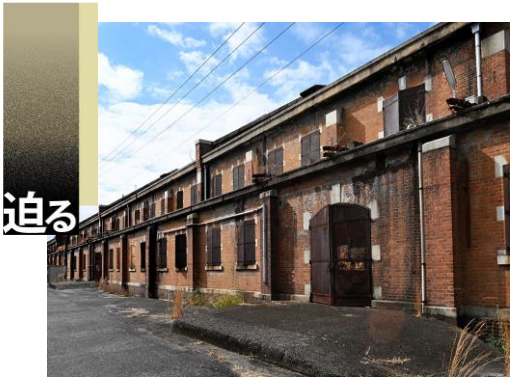


204

この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2024年3月31日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部



迫る

広島市内の住宅や学校が建ち並んでいる一角に、赤れんがの倉庫群が建っています。1914（大正3）年に完成した旧広島陸軍被服支廠（ししょう）=写真。兵士の服

被爆の赤れんが 平和願う場に

や靴などを製造、保管する施設として使われ、軍都でもあった広島での重要な施設でした。

45年8月6日、米軍が投下した原子爆弾によって、爆心地から約2.7^キ離れている赤れんが倉庫も被害を受けました。頑丈な鉄の扉は爆風で変形したほか、臨時救護所となり、ここで大勢の人々が息を引き取ったのです。

そのような歴史がある赤れんが倉庫を、平和をテーマにした絵画

31日(日)=1、3面

や芸術などを紹介する場所にできないか。連作「原爆の囃」で知られる丸木位里（いり）、丸木俊（とし）夫妻の親族が行動し始めました。同じく平和を願う人々が、赤れんが倉庫に集まり、結びつき始めています。

戦後から今——。原爆の悲惨さを伝えようと力を尽くす人々の思いに迫ります。

※先週は紙面事情により休載しました。再掲となります。

そこが聞きたい

生活保護の扶養照会 心理的負担は

31日(日)=くらしナビ面



仕事や蓄えを失って困窮し、生活保護を申請しようとする人たちにとって、直系の血族（両親や祖父母、子ら）などに金銭的、精神的な援助をすることが可能かどうかを尋ねる「扶養照会」は心

理的な負担が大きく、申請をためらわせる一因と指摘されています。いったい何が起きているのでしょうか。困窮者支援団体のスタッフ、小林美穂子氏=写真=が、その実情を語りました。



日本航空の次期社長に決まった鳥取三津子取締役専務執行役員（右）

論点

JALと共産党トップに

女性が就く意味とは

4月5日(金) オピニオン面

日本航空（JAL）と日本共産党のトップに女性が就任しました。平等でフラットな考え方が日本社会に定着していき、それがいい状況です。が、それでもここ数年、流れは変わりつつあり、若者の意

識は中高年と違ってきているようです。こうした動きを「時代の転換点」と捉える大学教授、性的少数者の専門家の選択的夫婦別姓問題に取り組み経団連に話を聞きました。

特集 ワイド 「異世界転生もの」ブームのワケ

4月3日(水)=夕刊2面

通り魔に刺殺された男性がモンスターに転生し、人間だけでなく魔物や妖精も住む異世界の君主としてコミュニティーを築いていく——。「異世界転生もの」と呼ばれるジャンルの小説や漫画、

アニメが人気となっています。実際には起こりえない設定なのに、なぜ現代人は転生ものに引きつけられるのでしょうか、専門家の話に耳を傾けました。



竹橋の窓辺から

編集後記

豊かな表現力と独自の世界観を披露する滑りでエンターテイナーになぞらえられるフィギュアスケート男子の友野一希選手。その友野選手をゲストに迎え、魅力を深掘りするオンラインイベントを4月8日に開催します。友野選手は毎日新聞でコラム「素直に笑顔に 幸せに」を好評連載中です。こちらイベントと併せてお楽しみください！（旭櫻子）



毎日新聞